

こぼれ話 12

日野に来た学童疎開の子供たち

皆さまは高幡山金剛寺五重塔地下の千体地藏堂入口にある弘法大師像（写真・高幡山金剛寺所蔵）をご存じですか？

この像は、戦時中、高幡山金剛寺に集団疎開に来ていた氷川国民学校（港区）の有志達が、昭和五十五（1980）年の五重塔建立に際して、感謝の気持ちと平和への願いを込めて奉納したものです。製作者の松坂節三氏も高幡山金剛寺に疎開していた氷川国民学校の児童の一人でした。

昭和十九（1940）年、激しくなる空襲から子供を守るため、政府は学童集団疎開を決定し、多摩地区も疎開の受け入れ先となりました。

日野市内には八月から氷川国民学校と大井第一国民学校（品川区）の児童たちが集団疎開にきました。

氷川国民学校3〜6年は、高幡山金剛寺と寿徳寺（日野市）・南養寺と見心寮（国立市）に分かれて疎開しました。

大井第一国民学校3〜6年の男子・女子は、
龍光寺（八王子市）、市内大昌寺・宝泉寺
・欣浄寺・日野国民学校豊田分教場・安田
善衛家別宅（東平山）・旧鮫陵源（東平山）
に疎開しました。

子供たちが長く親元を離れて暮らすさみしさ、つらさはいかばかりだったのでしょうか。この悲しみを繰り返し返さないためにも、戦争の記憶を語り継ぎ、平和な社会を築いていきたいものです。



